

進路



昭和二十二年二月二十五日
昭和二十二年三月一日
印刷納本
發行

第二卷第三號

三月號

Kaoto
46

それぞれの**籤**に
ちがった**妙味**
あり

一本十円
一等十万円

一本十円
一等千円

一本五円
一等五百円



さんかく



親切 低廉 確實

東京・京橋・第一相互館

第一生命保險相互會社

しかし善悪の支配する國から、ふたたび無邪氣な世界に逃げかへるといふことは、目覚めたものにとつてはなかなかやれることではない。しかしすでに恵みと救済を知つてゐるひと、非常にしばしば、ふたたび第二段階に逆戻りし、ふたたび法則と、不安として實現することなき諸要請の手に歸してしまふのである……」

私はここでこの論文を紹介するつもりではない。私はヘッセがはやくこの第二段階の人となり、孤獨地獄で「ヨガ」的な修業をしながら、第一の段階にふしぎによい郷愁を感じつつ、「目覚めた人間」としてその願ひがかなはず、苦しみ悩み、善と悪と獸性と神性ととの死闘を魂のなかに抱きながら成長し、第二段階の絶望から身を破滅させることなく、第三の段階にはいつていつたこと、それは「荒野の狼」から脱けきつた境地であらうことをいひたいのだ。

しかしヘッセの觀たかうした象徴的な描寫の多くのものには、なほそれ以上に高度な發展を示してゐるものもあることはいふまでもない。すなはち、もはや物質や成長の苦惱に從屬せざる精神の純粹なる存在、すべての宗教の理想としてゐる聖者の境地である。ヘッセはもろろんそれを望んではゐない。

「私にとつても完全なるもの、苦痛のないもの、清淨無垢なるもの、不滅なるもの、それが最高の理想と思はれることがよくある。しかしこの理想が愛すべき夢以外のものであるかどうか、いやそれが經驗となり現實となつたことがあるか……」

幸運兒

田中克巴

けふ電車で乗合せた人物は三十すぎで新聞を十枚あまりとりそろへ隣に坐つた男に話しかけてゐる。聞くとまなしに聞くと珍らしい幸運兒。きれた煙草が欲しさに買った富籤で十萬圓の當りくじ

その中五千圓を戦災者と引揚者に寄附し、あとの九萬五千圓でゆく定めぬ旅に出た。旅客制限も食糧難も何のそのと意氣軒昂としてまた新聞をよみひるひよみしてまた喋り出す。その顔その様子を見てゐるうちとめどなく私もおかしくなつた。笑ふのをこらへて心中くりかへす。イロハニホトABC——。

かし、あの精神史の主要な段階のことだけは、はつきりわかつてゐる。それについては、それを「驗したすべての人が知つてゐる。それは現實なのだ。あの夢想された、さらに高度の人間成長の段階があらうとならうと、それが夢として、最高の理想として、文學として、理想的な目標として存在すること、は好ましいことである。それがかつて人間によつて本當に經驗されたといふのなら、それはその人間がそのことについては沈黙してゐる體験であつて、それは性質上、經驗しない人には理解されるべくもなく、語りうるべくもないことである。ともかくもそれは理解と明瞭な傳達性から遠ざかるころのあの神祕的な最後の段階や精神の體験の可能性では決してない。あの精神の道程における初期の歩み、もつとも最初の歩みでも、それを經驗してゐる人へのみ理解されるし、語りえられるのである」

「……私自身のキリスト教的なものからはじまる精神史を物語り、そのなかで私の個人的な信仰の仕方を體系的に繰展べることは、これはとてもできない企てであると思ふ。それについては、これはすべての私の著作である。それらの著作の讀者のなかには、これらの著作が一定の意義と價値をもつてゐるといふやうなさういふ人もあつた。つまり彼ら自身の最も大切な體験や勝利や敗北やを、それらの書物が確めてくれ、はつきりと示してくれるのである。さうした人たちは多數ではないが、また『魂の經驗』をもつてゐる人の數も決して多くはないのである。大多數は實に決して人間にならない。彼らはいつまでもその状態にゐる。葛藤と發展の子供らしい「此岸」にとまつてゐるのだ。大多數の人たちは、おそらく『第二段階』を知ることさへなく、彼らの衝動と乳兒の夢の責任のない動物の世界にとどまつてゐる。彼らの薄明の彼方の状態について、善悪について、善悪にたいする絶望について、困難か、恵みの光のなかへ浮び上るといふやうなことに對して、『物語』を聞いても、それは彼らにはをかくひびくだけである……」

人間の個性化と精神史が遂行されるためには無数のあり方があつてもよい。しかしその歴史の道とその段階の順序はつねに同一であつて、この絶對不動の道が、實はさまざまのあり方、さまざまの種類の人間によつて經驗され、から得られ、甘受されるのを觀察することは、歴史家や心理學者や文學者の最もよこばしい情熱だとヘッセはいつてゐる。

ヘッセの第三段階における姿を示してくれるのは「グラスベルレンシュピール」であり、その後の作品である。藝術と哲學と宗教の花咲く第三段階の庭を垣間みるやうに、私はいまの「グラスベルレンシュピール」の一部分をよんでゐるにすぎない。そして私みづから第二段階の「絶望」をおぼろげながら感じはじめてゐるやうな状態であつて、今後ヘッセの作品にみちびかれて、願くば第三段階に踏みこみたいものと考へてゐる。

民主主義日本の反省と建設の書

新刊

富塚清著
科學日本の構想

B 6 版 350 頁 定價 45 圓 送 4 圓

日本が現在臨んでいる未曾有の難局打開のためには何よりさきに進んだ科學の力を借りる必要がある。政治の看板のかけかえだけでは到底うまく行くものでない。科學的、技術的なしつかりした裏付けがなくてはならない。先ず、日本の科學の缺陷を摘發すると同時に建設的方策を望みと愛と文化精神とをもつて考えなければならない。

世界文化協會

東京都京橋區
横町三丁目七

編集後記

☆ 混沌と無秩序の渦中にある日本に再建の方向を示すことは、本誌創刊以來の念願である。その意味で、本誌の巻頭を佐佐弘雄氏と中村哲氏の論文で飾ることの出来たのは、われわれの喜びとする所である。佐佐氏は、矯激な觀念論が現實に對する冷靜な判断を誤らせることを憂いて、完全な感覺と心理との回復を唱えられ、中村氏は、社會制度の改革が個人の自覺と良心の自由によつて裏づけられねばならぬことを主張される。理性と良識の缺如が、人心を荒廢におとし、世相を徒らに險惡ならしめようとして、今日、われわれは心をむなしくして、兩氏の警告に聞かねばならぬであろう。

☆ 柳田氏の「庶民主義の提唱」も、すでに回を重ねること六回、社會と人間に對する探究は益々高く、廣い領域に向つて進められつつある。なお續けて御執筆を頂ける豫定である。

☆ 張鳳亭先生は京都帝大出身の碩學であるが、目下中華民國駐日代表團第四組(文化關係)組長としてその日本に對する深い同情と理解を以て種々の問題の處理に當つてられる。先生が自ら感驗せられた五四運動についての所論は、明治

維新後一世紀に近からんとして未だに封建性を完全に脱却せず、徹底的な近代化に示唆するところが多いであろう。

☆ 日本文學の消極的な性格をどうしたらいふかと言ふことが今日文壇で問題になつてゐる。阿部六郎氏は、西洋文學の根本精神を最もよく理解した一人であると思ふのであるが、氏はその独自の立場から此の問題を論じられた。御精讀を乞う。

☆ 田部井健次氏は元勞農黨書記長で、永らく大山郁夫氏の家庭にあり、個人的にも社會的にも終始氏と行動を共にした人である。大山氏の歸國が傳えられる今日、氏の歩んで來られた道を回顧するのにも有意義であらう。

☆ 印刷、用紙等の面での諸條件の困難にもかゝらず、本誌は毎月刊行をあくまでつゞけてゆきたいと思つてゐる。讀者諸賢の御協力をお願いする次第である。(S)

進路

三月號
(第二卷 第三號)

特價 金十圓 (送料三十錢)

半年分 概算 五拾圓

一年分 概算 百圓

誌代に變動あるときは繰り上げ申受け送料を加算し前金初に際し發行者の上御通知申上げます。

昭和二十二年二月二十五日印刷

昭和二十二年三月一日發行

編輯兼 發行人 杉 森 久 英

印刷人 田 代 伯 文

印刷所 帝都印刷株式會社

發行所 進路社

東京都京橋區横町三ノ七

電話 京橋 一 二四八番

配給元

日本出版配給株式會社